

平成29年度 研修会予定のご案内

詳細・お申込方法につきましては、ちらし、京都医報（巻末サポートセンター通信）、ホームページの専用申し込みフォームにてご案内いたします。

京都 在宅医療

Q 検索

総合診療力向上講座

対象：医師

みんなが知りたい内容でご講演していただきます。

※北部会場・南部会場はテレビ会議システムを利用した中継会場となります。

第2回

かかりつけ医が知っておきたい“がん検診観”

～何を伝えますか？いつ伝えますか？何を訊きだしますか？～

【と き】9月9日(土) 14:30～16:30

【ところ】本会場：京都府医師会館 310会議室

北部会場：サンプラザ万助

南部会場：けいはんなプラザ

【講師】市立福知山市民病院 研究研修センター長

兼総合内科医長・川島 篤志氏

第3回

胸腹部痛を来す疾患

～意外に知らない?! 筋骨格系疾患～

【と き】11月11日(土) 14:30～16:30

【ところ】本会場：京都府医師会館 310会議室

北部会場：ホテルマーレたかた

南部会場：けいはんなプラザ

【講師】洛和会丸太町病院 救急総合診療科

副部長・上田 剛士氏

第4回

テーマ調整中

【と き】平成30年1月13日(土) 14:30～16:30

【ところ】本会場：京都府医師会館 310会議室

北部会場：サンプラザ万助

南部会場：けいはんなプラザ

【講師】京都大学医学部附属病院 婦人科学・産科学

ヘルスケア研究室 特定研究員 池田 裕美枝氏

●著書●「あなたも名医! プライマリケア現場での女性診療ー押さえておきたい33のポイント」など

生活機能向上研修 排泄支援 Part

対象：医師、看護師、医療介護福祉関係職種など

排泄支援について多職種で学びます。

【と き】11月25日(土) 14:30～17:30

【ところ】京都府医師会館

在宅医療に関する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～

対象：医師・看護師
ところ：京都府医師会館 310会議室

医師・看護職で在宅医療について共に学びます。

第1回

在宅における包括的呼吸リハビリテーション

【と き】8月20日(日) 10:00～13:00

【講師】梶原診療所 在宅総合ケアセンター長・病棟医長
オレンジほっとクリニック 所長 平原 佐斗司氏

第2回

在宅医療の現況と在宅整形

【と き】10月15日(日) 10:00～13:00

【講師】亀戸大島クリニック 院長 飯島 治氏

第3回

地域で支える心不全の緩和ケア

【と き】12月10日(日) 10:00～13:00

【講師】兵庫県立姫路循環器病センター
循環器内科医長・救急科医長
大石 醒悟氏

第4回

テーマ調整中

【と き】平成30年2月4日(日) 10:00～13:00

【講師】洛和会音羽病院 総合内科部長 兼 感染症科部長
神谷 亨氏

●専門●「内科学、感染症学」

京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～

対象：医師
ところ：京都府医師会館 310会議室

講義と実習で即実践!を目指します。

在宅におけるがん終末期の疼痛緩和について

～麻薬の導入から進行に伴う投与方法の変更なども含めて～

【と き】7月19日(水) 14:30～16:30

在宅におけるがん終末期におこる様々な症状への対応について

～腹水・喘鳴など事例も含めて～

【と き】8月10日(木) 18:00～20:00

9月20日(水) 14:30～16:30

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news

Vol.18

2017年7月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news は奇数月15日の発行です。

Main menu

- ◆ 6/15開催京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～開催報告(P.2)
- ◆ 新シリーズ「研修会、ここがポイント!」(P.2)
- ◆ 平成29年度第1回京都在宅医療戦略会議開催報告(P.3)
- ◆ 平成29年度研修会予定のご案内(P.4)

平成28年度受講者の声、集めました! [今年度の研修会については、本誌裏面「平成29年度研修会予定のご案内(P.4)」をご覧ください。]



東京都リハビリテーション病院
医療福祉連携室 室長
堀田 富士子氏
(28年度第1回講師)

リハビリ回復病院の詳しい情報、必要性が分かり、今後の仕事の中で必要時とりにいれていきたいと思いました。
(看護師・第1回「在宅医療でのリハビリテーション」)

サ高住を運営しています。100%認知症があり、BPSDは毎日の課題となっています。精神科受診を拒否されるご家族が多い中、どのような方向に進めばよいか少し見えてきたように思います。
(その他・第3回「認知症のBPSDへの対応」)

● 京都在宅医療塾Ⅰのご紹介 ●
医師と看護職の方を対象に、在宅医療において必要な知識、技術について、ともに学ぶことにより相互理解と連携を強めることを目的に開催いたします。

グループワークで皆で議論した内容で、在宅医療、リハビリ栄養学の現場の取組みが分かり、同時に課題も知った。その課題に対する介入方法の一部を本日の研修会で知った。
(医師・第2回「フレイル・サルコペニアとリハビリテーション栄養」)

なかなか体系的に学ぶことが出来ない領域であり、大変有益でした。
(医師・第4回「神経難病(ALS)の緩和ケア」)



横浜市立大学附属
市民総合医療センター
リハビリテーション科 診療講師
若林 秀隆氏
(28年度第2回講師)

Achenbach 症候群や Mondor 病について勉強になって良かった。
(第1回「Self-limited な病気を診断すること」)

クスリのリスクを並べるだけでなく、リスクがある中でどう安全に使っていくか、という視点が非常に勉強になりました。
(第2回「日常診療で使う『クスリ』と『リスク』①」)

● 総合診療力向上講座のご紹介 ●
本研修会は、開業医だけでなく、病院勤務医、研修医までの幅広い層を対象に、総合的な診療力向上に資する内容とし、外来診療そして在宅医療にも役立つ診断技術などを取り上げ、日常の診療に役立てることを目指しています。



市立福知山市民病院
研究研修センター長兼
総合内科医長
川島 篤志氏
(28年度第1回第4回講師、
29年度第2回講師予定)

プロブレムリストという考え、その実際、また病院総合診療医の先生の考え方など、とてもよく分かり参考になりました。
(第4回「『かかりつけ医』としての要約能力～プロブレムリストはいつありますか?～」)

豊富なデータと、机上の論にとどまらない臨床の知恵に富んだ素晴らしいレクチャーでした。ありがとうございました。
(第3回「日常診療で使う『クスリ』と『リスク』②」)



梶原診療所在宅総合ケア
センター長兼病棟医長
オレンジほっとクリニック所長
平原 佐斗司氏
(28年度第3回第4回講師、
29年度第1回講師予定)



洛和会丸太町病院
救急総合診療科 副部長
上田 剛士氏
(28年度第2回第3回講師、
29年度第3回講師予定)

6月15日開催 京都在宅医療塾Ⅱ ～実践編～ 開催報告



まつだ在宅クリニック 院長・松田 かがみ氏



基礎講義の様子



質疑応答の様子

平成29年6月15日(木)に開催した今年度第1回目の研修会は「在宅におけるがん終末期の疼痛緩和について」をテーマに開催し、53名の医師にご参加いただきました。まつだ在宅クリニック 院長・松田 かがみ氏、にしがもゆう薬局 管理薬剤師・三上 泰輝氏を講師にお迎えし、麻薬の導入から症状の進行に伴う投薬方法の変更なども含めて基礎講義、ディスカッション、実習という充実した内容の研修会となりました。



にしがもゆう薬局 管理薬剤師・三上 泰輝氏



経口・貼付投与の実技演習



持続皮下注射の実技演習

新シリーズ



研修会、パンがポイント！

参加できなかった人のための

今回の研修会では在宅での麻薬導入について、講師の松田 かがみ氏、三上 泰輝氏に加え、たなか往診クリニック 田中 誠氏、訪問看護師の松久保 眞美氏、勝本 孝子氏、京都府薬剤師会理事 緩和薬物療法認定薬剤師・小林 篤史氏と参加者による活発なディスカッションが行われました。

一部ご紹介

◆麻薬導入にあたっての注意点は？

☞ 標準的な方法を守ることが大切です。特に便秘・嘔吐などの副作用がいったん出ると内服を躊躇されることが多いので、事前の副作用対策は重要です。

◆トラマール®から麻薬導入に踏み切る場合、トラマール®に麻薬を追加するのか切り替えるのか教えてください。

☞ 基本、切り替えです。トラマール®の鎮痛作用は、弱いμオピオイド受容体刺激作用と、弱いノルアドレナリン/セロトニン再取り込み阻害作用(SNRI作用)からなります。よって、痛みの種類により神経障害性疼痛にトラマール®が効果を示している場合(SNRI作用)は強オピオイドと併用することもあります、侵害受容性疼痛では基本は切り替えになります。

◆がんの終末期には訪問回数が増えるのではと心配です。

☞ 訪問看護師を十分活用ください。

◆レスキューはオプゾ®だけではだめですか。

☞ 基本的には、MS コンチン®のレスキューはオプゾ®、オキシコンチン®のレスキューにはオキノーム®を使用します。デュロテップ®、フェントス®についてはレスキューにオプゾ®やオキノーム®を使用することがあります。

◆レスキューが何回くらいなら徐放製剤の増量が必要ですか。

☞ 明確なエビデンスはないが5-6回レスキューが必要なら徐放製剤の増量が望ましいです。

◆レスキューでも痛みが取れない場合は？

☞ レスキュー内服1時間-1時間半経過しても痛みが取れない場合は追加頓用が必要です。

貼付剤(フェントス®、デュロテップ®)については多くの質問がありました。貼付剤は内服できない症例にも簡便に投与できる利点があります。ただ、フェントステープ®最小の1mgでもモルヒネ30mgと同等の量であり、さらにフェンタニルの呼吸抑制に注意が必要です。効果が現れるのに12-24時間かかり、最高血中濃度に達するのに2-3日を要します。はがした後も24時間は効果が残るので、決して使いやすい薬ではないことから、条件が許せば内服からの開始が望ましいとの意見がありました。

7月19日に開催される同研修会においてもディスカッションを行います。講義内容に関連した疑問・不安について相談し、解決していく場になればと考えております。

新担当理事の ご紹介

6月18日の府医定時代議
員会で承認され、新たな理事
の就任が決定いたしました。



小柳津 治樹 理事
地域ケア委員会
担当
(宇治久世医師会)



山下 琢 理事
地域連携・リハビリテーション
担当
(下京西部医師会)

平成29年度 第1回 京都在宅医療戦略会議 開催報告

6月21日(水) 京都府医師会館にて開催し、22地区(内TV会議参加1地区) 25名の担当理事及び京都府医療課・京都市健康長寿企画課・京都地域包括ケア推進機構に出席いただきました。

■ 京都府医師会 会長挨拶



松井 道宣 府医会長

開会にあたり、松井府医会長が、新執行部での地域医療担当理事を紹介、併せて新任の山下府医理事、小柳津府医理事を紹介しました。在宅医療・地域包括ケアサポートセンター事業の中で地区医師会在宅医療連携拠点事業は、各地区医師会(以下、地区医)と行政との連携、超高齢社会においての最適な医療・介護連携の構築

を図る上で重要であるとし、平成30年度から市町村による取組が義務化される介護保険を財源とした地域支援事業(在宅医療・介護連携推進事業)へ移行する際に財源の確保が困難になることが危惧されるため、自治体との強固な連携が必須となると、各地区医に対応を求めました。京都府の「京都府地域包括ケア構想(地域医療ビジョン)」にも触れ、地区医が多職種協働の中心となる必要があり、更に京あんしんネットや在宅療養あんしん病院登録システムなどを活用した病診・診診連携の拠点機能としての協力を求めました。

■ 「京あんしんネット」について概説

松田府医理事より「京あんしんネット」の概要を説明したうえで、普及推進に向けた取組の1つとして、かかりつけ医に対するタブレットの無償貸与を開始したこと等を報告しました。

■ 平成29年度地区医師会在宅医療連携拠点事業について

北川府医副会長からは、平成29年度地区医師会在宅医療連携拠点事業について、再度平成30年度以降を見据え市町村との協議が必要であることを説明し、地域医療・介護総合確保基金(以下、基金)で「在宅医療・介護の連携」に関しては、財源確保が厳しい状況にあり、来年度以降は市町村による在宅医療・介護連携推進事業との棲み分けを含めた整理を行っていく必要があることを説明しました。

その一方で、府医として基金での支援を継続する可能性など、



会議の様子

現在、京都府と協議中であると報告しました。

その後、各地区医より今年度の事業の内容や、特に京都市外の地区からは、「地域支援事業の進捗状況」についての報告を頂き、意見交換を行いました。

■ 平成29年度第1回京都市在宅医療戦略会議

全体会議終了後、引き続き京都市内の地区医による平成29年度第1回京都市在宅医療戦略会議を開催。京都市より『京都市在宅医療・介護連携支援センターモデル事業(以下、センター)について、センターの業務内容、設置のためのワーキンググループでの協議内容、今年度モデル事業の実施地域選定の考え方を説明いただきました。現在、右京医師会、左京医師会の2地区と調整中であり、来年度以降、現在の地区医師会在宅医療連携拠点事業が地域支援事業に移行する際は、各地域の特性を生かして京都市として検討していくと説明がありました。続いて、右京・左京医師会より、受託等に係る進捗状況を報告いただいた後、他地区からもご意見をいただきました。

さらに、北川府医副会長は、「センターは各地区の現行の取組みを更に発展させるもので、運営における人材確保のためにも非常に重要であり、〔契約・仕様関係(案)〕をベースとしてまずは開始し、地区ごとのニーズに合わせて修正していきたい」とし、「将来的には京都市全域で取り組む事業のため、各地区で内容を検討いただき、ご意見を伺いたい」と述べ、近日中に地区医に対してアンケート調査を実施する意向を示しました。

最後に京都市より、平成27年度より実施している日常生活圏域の地域ケア会議における地区医のスーパーバイズとしての参画について改めて説明があり、会議での課題について、医療の立場からの助言、取り組みの紹介、地域の抱える問題の情報共有、顔の見える関係づくり等について、引き続き協力を依頼しました。